

私 の 工 夫

道徳性を養う基盤作りの一例
「チーム学校」が作る
なでしこ郵便局

新見市立本郷小学校
指導教諭 大月 ちとせ



1 はじめに

本校の研究主題は「自他と対話し、目標をもって学び続ける児童の育成」思いやりの心を育てる道徳の授業実践を通して」である。

ここでいう「自他と対話」を、本校では①対自的対話②対他的対話③対事象的対話の三方向からとらえている。自己、他者、そして自らを取り巻く事象と対話・協働し、多様な価値を認める。そこから、道徳性が育ち、児童が自己の学びに向かうと考えている。道徳だけではない。学びの中で仲間との対話、励まし合い、切磋琢磨は大切である。多様な価値に触れて自己を振り返り、また成長

する。見慣れた事象を深く見直すことで新たな価値を見いだす。この三方向の対話が、道徳性の基盤を作ると本校では考えている。

2 ゆうびんやさんがつなぐ仲間

(1) ふれあいを取り戻せ

今なお感染の恐怖の影を落とされている新型コロナウイルス。さまざまな影響は、学校現場にも大きく及んでいる。行事や活動も縮小や中止を余儀なくされた。子ども顔もマスクで覆われ、笑顔が見えなくなった。

当たり前が失われた世界で、今まで通りの学びを取り戻す。いや、

まず、今できる最善の人間関係を再構築すること、それが学校全体の課題となった。

(2) ゆうびんやさん活動計画

- 提案者 1年生
- ねらい

- ・ 学校中の人が仲良くなる。
- ・ 郵便の基本的な流れを知る。
- ・ 葉書の表書きの基本を知る。

- 活動期間 1週間

- 葉書やポストの準備 1年生 1年生から全校に活動を提案すること、ここに大きな動機がある。

諸活動の中止や縮小で、ふれあいを一番欲していたのは1年生である。身体の接触、ふれあいを制限されるのなら、葉書を作ったり郵便を運んだりする活動を通して、上級生とふれあいたいという願いがあった。

「ポストは廊下に置いて、みんなに分かりやすくしよう」「ポストも作って知らせよう」「郵便局は昼休みがいいね」等々、生活

経験から知恵を絞り、記憶を辿って準備を進めてきた。



ポストはここですよ

(3) 葉書が心をつなぐ

画用紙で葉書を作り、切手代わりのシールを用意し、郵便局初日1年生たちは、わくわくして上級生が来るのを待っていた。

そして昼休み。思わず「密にならないでね」と、声をかけずにはいられないほどの行列が廊下にあった。その光景は、私たち教職員にある事実を改めて教えたのだ。子どもたちはふれあいに飢えて

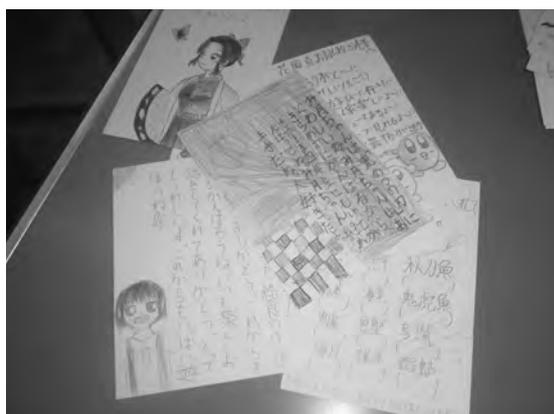
いると。もちろん、各担任の促しもあった。しかし、子どもたちは、ささやかな娯楽や、人とのつながり、ふれあいを求めていたのだ。



葉書を買う行列

そのことは、配達の間でもわかった。葉書を受け取る子どもの輝く笑顔、思いがけない相手から届いたことへの驚きの声、そして「今から返事、書こうかなあ」とつぶやく、照れくさそうな声。「ゆうびんやさん、ありがとう」という感謝の言葉。

た丁寧な葉書や、過去の担任への葉書も増えてきた。



工夫を凝らした葉書

この活動を、キャリア教育の一環ととらえてもいい。生活科の中でこぢんまりと終えてもいい。しかし、道徳性を養う体験活動ととらえ、学校全体が共通の喜びと充実感を味わうことは、校内研究の基盤ととらえてよいと考える。

また、届いた葉書の文面から「ぼく、あいさつの声がいいと思われているんだな」「私は、下級生から、掃除のことでお礼を言われた」といった自己確認、自己肯

定感に繋がる。本校が年度初めに行った道徳アンケートの結果、本校児童は自己肯定感が些か低いというデータが明らかになった。この活動は、そういった自己肯定感の支えになると考える。



僕にも来たよ！

そして、次々に「先生、次は葉書にくじをつけたら、もっと喜ばれるよ」「郵便局に名前をつけよう。学校の合い言葉のなでしこ郵便局はどうか」と、アイディアを出してきた。

「な」かまを思い

「で」きるぞきつと

「し」っかり考え

「こ」ころも強く

本校の合い言葉「なでしこ」はこの頭文字をとっている。そのことを活動に生かすという気づきも、事象との対話と言える。

毎週、ルーティンのように教材を読み、ワークを埋める。そして、表面的に、道徳性が身についた気になる。それが、特別の教科 道徳ならば、何か悲しく味気ない。各学年の道徳の学びを支える活動が、子ども発信で動き出し、学校全体の喜び・安らぎ・活性化となる一例になれば幸いである。

3 おわりに

本実践で、ふれあいを全身で浴びたのは1年生である。入学以来、大きな楽しみがなかった彼らは、自分たちの小さな活動がこんなに喜ばれたことをしっかりと体感した。